

令和4年度学校評価アンケート集計結果と学校評価について

学校関係者評価を行うにあたり、内部評価（教員・生徒）に対するアンケート調査を行い、分析することで次年度の学校運営の参考にする。

調査方法および分析方法

調査は全校生徒（158人）を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った（平成25年度より継続して実施）。

結果）

- ・施設及び学年以外は点数に差が見られず、傾向が読み取りにくい結果となった。学年間の比較では、総ての項目で有意差が見られず、1年生の平均値が高い傾向が見られた（表1）。これは、以前には見られない傾向である。
- ・満足度の年度間比較では、平成30年度から3年連続上昇した後、昨年度少し下がり、今年度は大幅に数値が下がった。下がり幅は、平成27年度から28年度に次ぐ大きさであった。コース間では、例年と同様に普通コースよりスポーツコースの満足度が高い傾向が見られた（表2）
- ・現3年生は、昨年度と比べ大きく数値が下がった。2年生においてもやや数値が下がる結果となった。（表3、表4）。
- ・CS分析の結果より人間関係は例年通り重要かつ満足度が高い傾向があるが、学年やコースによりやや異なっていた。また、昨年度に引き続き、授業の重要度が高くなっていること、進路の満足度が例年より低くなっていることが今年度の特徴であった（図1～6）。
- ・満足度と各小項目の相関係数が過去で一番高く、強い相関関係が認められた（表5）。
- ・教職員の自己評価はR2年度から上昇傾向が続いており、高水準であったH25年度の数値に近づいてきている。今年度は特に研修の項目の数値が上昇した（表6）。
- ・自由記述欄、北照高校の良いところを記載内容毎に分類した結果、学校生活、なし、教員、取り組み、部活の順で数が多かった。同じく悪いところは、施設、なし、イメージの順で数が多かった（表7、表8）。

自己評価）

※評価についてはAを最高として、A～Eの5段階評価で行った。

項目	評価	総 評
学校運営	C	満足度の数値が大幅に低下してしまったことは、大いに反省すべき点である。また、令和3年度に起きたいじめ事案について、「重大事態」として、道に報告することになった点、その後保護者や生徒との信頼関係の再構築に取り組んでいる過程という点も評価を低くする要因となっている。プロジェクトやスポーツコースの新しいクラス編成の導入など、精力的に取り組んでいる部分を活かし、満足度の向上に繋げていきたい。

生活指導	C	生徒のアンケートや教職員の自己評価から、生徒・保護者とは一定の信頼関係を築くことができているものの、先述した「重大事態」の発生により、大きな不安と動揺を与えてしまったこと、満足度の数値が低下してしまったことから、昨年度より評価を下げた。「いじめ」のない学校を目指し、生徒や教職員への啓蒙活動や研修を強化している部分を継続していきたい。
進路指導	B	令和4年度の卒業生も、おおむね自己の希望する進路へ進むことができた。担任を中心に、全教員が協働して進路指導を行った成果と言える。一方で、一昨年同様に進路に前向きに取り組むことのできない生徒が一定数おり、これに対して担任や進路指導の担当が粘り強い指導を続けたものの、大きく状況を好転できないケースがあった。さらに、進路決定後に生徒指導の対象となってしまった生徒がおり、課題であった進路決定後の指導について、取り組みが急務になったことも次年度に向けた反省点である。
教科指導	B	授業規律については良い状況を維持できている。今年度より、新カリキュラムの開始に伴い、ICTの導入として、生徒1人に1台の패드導入を行った。それに伴う研修を、担当教員を中心として行ったが、利用状況は十分とは言えない。生徒が主体的に学ぶ環境を構築するための有効な手段として活用するよう、取り組みを継続したい。
特別活動 課外活動 指導	B	新型コロナウイルス対策も3年目となり、多くの学校行事は対策を講じながら実施することができるようになった。生徒が楽しい思い出となるような行事を実施できたことは評価できる点である。一方で、一部の部活動で「重大事態」が発生したことから、部活動における生徒指導を改善して行く必要性に迫られた点を鑑みて評価をBとした。
総合評価	C	新カリキュラム、スポーツコースの新しいクラス編成、プロジェクトと学校が大きく変わる年となった。これらをきっかけとして、昨年度低下した生徒の満足度を、向上させていく努力を行うことを目指したが、結果として数値がさらに低下してしまうこととなってしまった。さらに先述した「重大事態」の発生もあり、評価をCとして、次年度は、多岐にわたる課題に真摯に向き合っていきたい。